



親が不登校の子どもと向き合うためには何が必要か

※紹介する事例はプライバシー保護のため、事実と変えているところがあります。

軸を支える土台④

軸を支える土台の4つ目は、親が命の力を見る目（専門性）を身につけるといことです。それは、「この子は、一生懸命に生きようとしている」という存在を認めるまなざしです。

■専門家の意見に依存しすぎない

「専門家」の意見の中には、深い専門性があるかどうか疑わしいものがあります。例えば、「学校に行かなくても、生活リズムは整えておいた方がよい。そうしないと、学校に行くようになって、朝起きることができなくなる。」という考え方です。

あるお母さんは、そのアドバイスを信じて、学校に行かない子どもを毎朝30分以上もかけて起こし続けました。そうしたことがどれほどの意味を持つのか疑問です。

子どもたちの多くは、その気になれば生活リズムはちゃんと整えることができます。子どもの生活リズムを整えることで安心するのは大人で、子ども本人にとってはあまり意味はないようです。勿論、本人が生活リズムを整えたいと考えているのであれば、起こしてあげるのは良いと思います。

本人の気持ちを無視して、「生活リズムを整えることが大切」とこだわりすぎるのは、疑

問を抱かざるをえません。

また、「1対1の関係→小集団→大集団→教室へ」と、スモールステップを踏みながら集団に少しずつ慣れさせていくことが良いという考え方があります。不登校の子どもは「人の目が怖い」「集団が苦手」と言うことが多いので、専門家が考えたのでしょうか。

確かにそういう子どもいますが、本人がその気になれば、スモールステップを踏まなくても教室に行くようになった事例はたくさんあります。むしろ、スモールステップを踏み段階で、心が疲れ切ってしまう子どもが少なくありません。

私の知る限りでは、スモールステップが大切なのではなくて、自己理解ができるかどうかポイントのように思えます。ですから、「1対1の関係→教室へ」という子どももいます。また、ひきこもりの生活→社会という子どももいます。

どうして、専門家の考え方・理論にはこのように不登校の子どもとの状況とマッチしないことがあるのでしょうか。それは、子どもを治療や指導・支援の対象として見過ぎているからかもしれません。会議や研究室で考えられた理屈・理論・仮説は、子どもの命の力に合わないことがあるのです。

ですから専門家の意見には依存しすぎないことが求められます。専門家の意見も、親が主体的に判断する一つの考え方として参考にすることが大事です。専門家に依存するの

はなく、一人のパートナーとして相談にのってもらうことが大切です。子どもの理解を深めるために、参考意見を聞くのはとても良いと思います。しかし、ただ盲目的に専門家の言いなりになってはいけません。

■わが子の命の力を見る目（専門性）

では、不登校をしている目の前のわが子の専門家は誰でしょうか。不登校の専門家は、医者や臨床心理士やケースワーカーや相談員や支援者…かもしれませんが、わが子の専門家はその子どもの親自身です。

ひきこもりの生活をし、全ての支援を拒否した娘さんがいました。不安からか、自分の部屋中の壁に穴を開けました。家具も壊しました。リストカットもしました。ご両親はとてつらかったと想像します。

ある日、部屋から大きな音がしました。でも、いつもの音とは違う感じがしたので、「大丈夫？何か言いたいことがあるんじゃないの」と声をかけました。すると、「もう一度高校に行きたい」と言いました。ドア越しにですが…。

「壁に穴を開けるなんてまともではない。病気だから病院に連れて行かない」と迷うこともあったと思います。しかし、「不登校になって高校をやめてしまい、将来への道が見えなくなれば、そうした行動をとるのは当たり前かもしれない。その中で、この子は考えようとしている。」と考えていたことが、子どもに安心と力を与えました。

命の力を見る目は、親の「本気の対応」を生み出します。それは、マニュアルを超えます。また、ピンチをチャンスに変えます。

星の会の例会で語られる経験には、そうした深くてしなやかな専門性が溢れています。

星の会学習会の予定

講演会

<星の会yufu 1周年記念講演会>

不登校を子どもの立場で理解する

講師：加嶋文哉

■10月22日（土）14：00～16：00

■由布市湯布院福祉センター

（健康温泉館クアージュゆふいんの隣）

■参加費 会員無料／一般1,000円

■問い合わせ 立川 090-8662-3966

<津久見星の会20周年記念講演会>

演題は未定 講師：加嶋文哉

■11月13日（土）13：00～16：00

■津久見市民会館第1会議室

■参加費 会員無料／一般1,000円

■問い合わせ 小野 090-4340-4301

不登校の高校進学相談会

■10月30日（日）13：00～16：00

■植田市民行政センター 会議室1

■参加費 会員無料／一般1,000円

■問い合わせ 衛藤 090-7392-2206

詳しくは9月の会報と一緒にチラシが届きます

おね

原稿をお寄せ下さい

●感想・体験 ●伝えたい情報

●その他不登校に関すること

<メール> toiwase@hoshinokai.net

<FAX> 0972-24-3557

がい

寄付の募集

活動を継続・発展させていくために寄付や切手等の寄贈をお願いしています。力をかけて下さい。尚、寄付・寄贈していただいた方は会報で紹介させていただきます。

郵便振替

<口座記号番号> 01710-8-142651

<加入者名> 不登校を考える星の会

原稿は、FAXかメールでお寄せ下さい。掲載の際に匿名・インシヤルなど希望する場合は、そのことを書き添えて下さい。

10月の例会予定

○昼の大分例会…10月1日（土）13：00～16：30

○別府例会…10月1日（土）19：00～21：00

○豊後大野例会…10月13日（木）19：00～21：30

○津久見例会…10月14日（金）19：30～21：30

○夜の大分例会…10月21日（金）19：00～21：30

○湯布院例会…10月22日（土）14：00～16：00

会報発送のボランティアを募集しています。協力していただける方は河野さんまで連絡をください。

会報発送作業

■9月22日（木）14：00～

■ジョイフル米良店

■お尋ねは河野

（080-5272-9360）まで